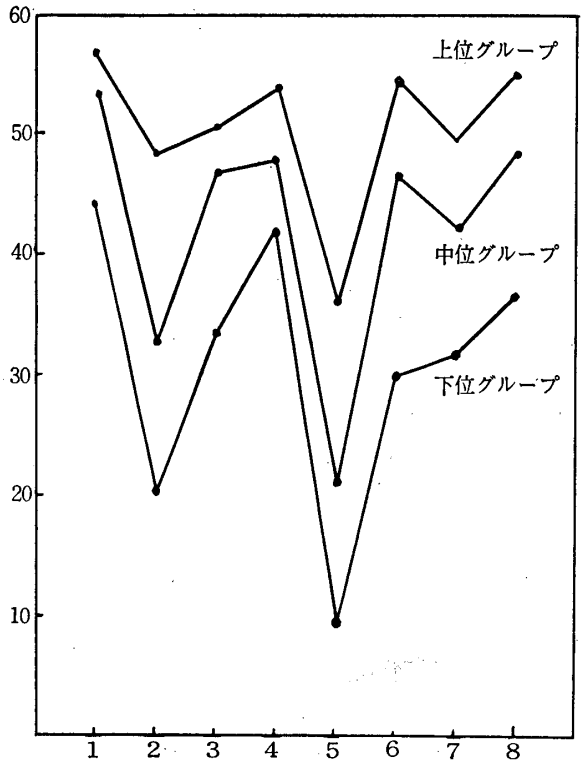
（表　1）

グループ（人数） ＼ 問題（配点）	1 (10)	2 (10)	3 (10)	4 (10)	5 (15)	6 (15)	7 (20)	8 (10)	計 (100)
上　(31)	9.52	8.06	8.45	8.97	9.00	13.58	16.52	9.10	83.19
中　(74)	8.96	5.51	7.84	8.00	5.03	11.72	14.20	7.92	69.04
下　(43)	7.44	3.49	5.63	7.07	2.44	7.53	10.56	6.09	50.23

問題の内容により配点が異るので，便宜上各問題を60点満点に換算して，上中下のグループ別に比較してみたのが図2である。

（図　2）



前記の表1と図2からいろいろなことが考えられる。問題の難易，解答形式の相違などによって，正答率はかなり変化してくることは当然予想されるが，問題5それに次いで問題2の平均点は各グループとも著るしく低く，平均点の低い問題ほど上中下のグループ差が大きいことがまず注目される。問題2と5は，共に直接英語を書かせる問題であり，また下位グループが特に低い問題6は，与えられた単語を正しい語順にする問題である。

問題はすべて基本的な段階のものであるが，Recognition と Production の間のギャップは大きい。このギャップは県下普通科の問題別正答率と，本校のそれとを比較してみる時，本校において一層はっきりしている。これは今後の指導上，特に Writing の指導上に重要な示唆を与えている。

次に最も成績の悪かった問題5の誤答調査を各グループ毎に行なってみた。詳細な結果はここでは省くが，中位下位グループにおいては誤答の種類が非常に多くその誤りも，英文としてはおよそ考えられないでたらめと言えるものが多い。

例えば，与えられた日本文の意味をあらわすように空所を満す問題の一つに次のようなものがある。

「あなたのクラスではだれがいちばんじょうずに英語を話しますか。」

Who (　　) English (　　) (　　) (　　) (　　)?

この問題の正答率は上中下のグループでそれぞれ61%，23%，9%であり，誤答の種類は実に約60にも及んでいる。問題6の成績を考え合せると，語順が中位以下の生徒の大きな困難点であることがわかる。能力別編成をとらない学級の中で，どのようにして英語学習の困難点をより小さくしていくか，特に Word Order 定着に関して効果的な指導方法を探りたいと思ってるい。

（高橋み）

Ⅲ. 進路と適性能力

1. 適性型と適応型について

大学進学を目前にした高校の生徒を，将来の職業につながる学校や学部の選び方について，二つの種類に大別してみることができると思う。

その一つは，自己の将来の職業について，はっきり

した希望や未来像を持っていて，それに適当した大学への進学を目指している者たちである。

もう一つは，進学を目前にしていて，そうした希望をまだ特別にもっていないものである。その多くは，職業に対する自己の適性がよくわからない。したがって，是非この大学のこの学部へ入りたい，というような目標を持っていないものであり，つまり，合格できるところならばどこでもよい，という者たちである。

前者は，その職業的興味又は適性が早く確立されている意味から，ここでは適性型と名づけておこう。又後者の場合は，その将来の職業が，たまたま合格し入学した学校の，又は学部の種類，性格により，また大学卒業時の周囲の状況という面から，かなり他動的に決定されてゆくのであり，むしろそれに自己を適応させてゆこうとすることが考えられるので，これを一応適応型と呼びたいと思う。

適性型になる者は，内発的な動機をもとに，まわりの影響をとりいれながら自己の職業の未来像を考え出すのであり，意慾的である者が多い。それ故に，普通にはこちらの型の方が望ましいとされている。しかしこれに対して，適応型もあながち無気力で，真剣味が足らない者が多いとばかりは言えないであろう。この型の生徒も，自己の将来の職業について真剣に考えているものが多く，決定が難しいのは，むしろ考えの慎重さに基く場合も多い。又たとえ理想を描いても，それが実現できそうな大学へ進学できる学力がない者もあろう。このような型の生徒に対して，無理矢理にある方向を見つけることを奨励することには，かえって問題があるのでないかと考えられる。そして又，適応能力というものの対象範囲は，個人的能力や性格によってそれぞれ異った限界があるとはいうものの，かなり巾の広いものがあるのであり，そのことは人間の本来有するすぐれた能力であると同時に，又努力して啓発してゆくべきものでもあるであろう。学校普通教育も，それを長く行なっていることとも考え合わせるならば，これについての特質も又考えて見なければならないと思うのである。

適性型の長所と短所について

適性型の場合は，職業や適性に対する判断が正しければ，それが長所となり，誤ればそれがそのまま短所となる。

正しい場合は，それが将来意慾的な職業生活を送ることに直結し，社会への貢けん度も高いであろう。又その前の大学生活も，明確な目的をもち，希望に満ち真剣な勉学をする動機になり得る。

若し判断を誤るか，或いは不正確であった場合は，より大きな問題を残す可能性があると考えなければならないであろう。それでなくても，現代の複雑な社会構造の中にあっては，曲折して自己の理想とする方向へ真直に進むことが困難な方面もあれば，又ある程度以上は早くから予想できない面もあろう。或いは，中途において，思わぬ他の職業に対する再認識をすることがあるかもしれない。そうしたことによって当初の希望が，「一時の幻影」となるときもあることを考えなければならない。

適応型の長所と短所について

生徒が，常にどちらの方向へでも，積極的意慾的に適応しようとする心構えをもっているならば，これは職業の選び方としては，より間違の少い方法ということができるであろう。

しかし，その心構えがない場合は，無気力で日和見的な気持を持ち易く，目標や夢のない怠惰な学生生活を送り，惰性的に職業生活に入ることが充分考えられる。

この場合の進学のし方は，合格できる学校ならばどこでもよい，ということであるから，もし学力が低くてそうなるときは，敗北感や挫折感によって積極的な意慾を持って勉学をすることができないでろあうし，その反対に学力が高くて有名校に入ったときには，功利主義，出世主義を第一にして，真の目標を第二にすることになることがけ念される。

適性型と進路指導

ここでは，正しい判断を行わせることが最も大切なことである。その判断は，広い視野に立って，比較的相対的に眺めた「ある一つの職業に対する理解」と「自分にその適性があるか」という二点についてである。このことは非常に難しいことであるので，とくに冷静で，真剣で，熱心に考えることを指導しなければならない。周囲の人や，その職業の専門家の意見にも謙虚に耳を傾け，又はむしろ積極的にそれを求めて判断の資料とするような熱意と責任感をもってするように指導すべきであろう。

将来希望の変更が余儀なくなったときに，それに対処し，適応して行けるような心構えを持たせることも大切ではないだろうか。

次に例えば，数学の学力が低いことが，理工科方面に適性がなく，つまり文科方面に適性があるとせざるを得ないようなことになる例は極めて多い。学力のむらが，進路をせばめ，狭く限定することが最も多いのが現実である。その結果，やむを得ず決められた方向は，本来適性と呼ぶことのできるものではない。したがってこれをできるだけ避けるような指導が特に低学

年で行われる必要があろう。

適応型と進路指導

適応型には，どの方向へ進んでも，そこで意慾を持ち，誇りを持って努力する気持や自信を，すでに進学前から持たせる指導が絶対に必要である。逆に言うならば，その姿勢をとり得る生徒にだけ，この進み方を許すことができると思うのである。

(中野)

2. 文科型・理科型の適性について

高等学校における進路指導の際，多くは外的条件により，進路の決定がなされている。しかし，生徒の適性が，本当に進路と合っているか，いないか，かなり問題になってくる。そこで，適性に対する色々な要因は，あると思われるが，生徒自身が自分の適性をどのように考えているのか，又，それが，どんな条件でなされるのか，特に，内的条件はどのように作用するのかを究明したいと思い，授業科目と思考の仕方と適性がどの様に関連するかを調査してみました。

1. あなたは次の科目のうち得意，不得意に関係なくどの科目に興味がありますか，四つ以内○でかこみなさい。

現国　古典　日本史　世界史　地理　倫社・政経
英語　数学　物理　化学　生物　地学　芸術　体育
容庭

2. あなたは次の科目のうちで，得意なものを四つ以内○でかこみなさい。特に得意なものは◎でかこみなさい。

現国　古典　日本史　世界史　地理　倫社・政経
英語　数学　物理　化学　生物　地学　芸術　体育
家庭

3. (1) あなたは問題を考える時，次のどちらになりますか。○をつけなさい。

(イ) わからなくなってもいつまでも考える。
(ロ) わからなくなったらすぐ次にうつる。
(ハ) その他

(2) 一つの問題を考える時，次のどちらになりますか。○をつけなさい。

(イ) 一つの方法で解けるまでがんばる。
(ロ) 色々な方法で解いてみる。

4. あなたの性格は次のどれに入りますか。○をつけなさい。

(イ) 内向的　(ロ) 外向的　(ハ) どちらでもない

5. あなたは次のどれに適していますか。

(イ) 文科系的なもの　(ロ) 理科系的なもの
(ハ) どちらでもない

この調査の結果は次の表のようになりました。

表 1

2 年 (141名)

5.

文	57

1.2.

文文	理理	文理	理文	どちらでもない	その他
39	1	0	3	9	5

3.

	イイ	イロ	ロイ	ロロ	ハイ	ハロ
	5	6	17	22	3	4

4.

	イイ	イロ	ロイ	ロロ	ハイ	ハロ
イ	3	2	6	10	3	2
ロ	1	1	4	4	0	1
ハ	1	3	7	8	0	1

理	38

文文	理理	文理	理文	どちらでもない	その他
2	17	1	1	7	10

	イイ	イロ	ロイ	ロロ	ハイ	ハロ
	2	11	6	13	0	5
イ	1	6	5	6	0	3
ロ	0	2	1	2	0	0
ハ	1	3	0	5	0	2

どちらでもない
46

文文	理理	文理	理文	どちらでもない	その他
9	3	0	0	21	13